



新
版
繪
入

全
部
紙
子
繪
入

下
伊
地
子
繪



1617
3



1617
9



下
伊勢
新

金玉神のあそび巻之三

女良乃上う保一

君臣父子夫婦兄弟朋友の和一はうと聖
 人をも備ふればゆひそんれ情づゝと道なる
 徳と也又梅の色も又の理なきは各別大
 うの表三礼小臣忠をたりのは又忠の
 善あくる子親へも孝小兄弟むつと
 うは朋友のつりまうそれ人か又信と具
 足すのよめて人備とのふ善とれと
 す附はちく難小お一たうと



下
伊勢
新

山くもつふみわたる日おそく
て佳なるは清水れびく流れ
流るるはあけ安れつた
人おそくは家おそく
一ね流る水お有て其性
流る水の流る年教を
なる事一は
の流るおして暫
ねを
てお

中十き流る事何
つうて
よは
同
女
く
なる
ち
て
ね
の
た

きでんれはふあう岸ふの樹むたの葉てあ
晴さの露のなほはたーやあひのまをせれ
まあこれ老う水はうらう其まじいまーさ
りやばうらうなりーあんれとくあそをんて
霧の大蛇とわうまほらうさうとーグ見
うららたのま猪うらんまを秋ーたごい
ふらうんで別園のまへるにーにうの
げーらああうけううふこーらー極人
れとハたりのまは秋あづーれう後ーく
あうて其あそをせほらうすそれあう

海も能くたしんばそ我こーらう
作う物そを夢うハ米ひの望うとあひ
又作てんまごそそたーやまをらとあう
院ふ一ほふのまんとすう作かあまごう
ーまよは知海のあうらたうれごそそ
あう遠何後とらうらうとらうれ編ハあ
あうせんあふのこふんはたうてせいの
ー新くんまへけ話うーらふ海の性根入
て中くあうらう人あそあせに後あ
よ園入うあまをわひあかたごく



金五郎の山

毒もたちて若きふゆくののハあつしを
形ひ又ハ死にさまバ佛乃由路ゆをらん嘆
病の三河とぬて二毒の太トヤふたと人
ひーが今ハふちらちをそれ能あつさ備せ
ゆせぬくたのまごはん身あれみひそ
らんこそせーらん勢の公法は太トヤれ魂と
なれり何まゆいふか悟げら身ーと見え
付ー付たと人あつさあり新せて成とせ
見身一毒ふをと合せそのふ富貴人ふて成と
はにのうーらとぬて感さんこたふみーゆ

毒もたちて若きふゆくののハあつしを
形ひ又ハ死にさまバ佛乃由路ゆをらん嘆
病の三河とぬて二毒の太トヤふたと人
ひーが今ハふちらちをそれ能あつさ備せ
ゆせぬくたのまごはん身あれみひそ
らんこそせーらん勢の公法は太トヤれ魂と
なれり何まゆいふか悟げら身ーと見え
付ー付たと人あつさあり新せて成とせ
見身一毒ふをと合せそのふ富貴人ふて成と
はにのうーらとぬて感さんこたふみーゆ

金五郎...
とていへくもこれのらん...
一つはあつらふく様...
さう野ひのせやせ集せたと云れどあは
き出は討ふ...
ふくろとてあつらふ人今...
あられは一業はあつらふ...
屋と窺人とも二人のよ...
はあれすふん...
月日とせせうある時...
立一...

見まはす小細字...
細くたちてありとも...
ひ小思ひの...
一六作...
はあつらふ...
念とせなる...
く作らるれ...
があつらふ...
一つとせ...

うたよ星雲うりりて流れて掛るべー
 其う入りゆくつに二國の死に此男をなれば必
 中此女りんぶさくめで遊ぶよといりんや花
 舞の男さうりふはう身せりしきしー色
 舞だありんごてまりり小使りれーの
 なれハあみ玉の女の舞をなふ女は強
 くらんては腰立ちのりよとせさうーながぐけ
 せさうやあげてハお女事いうてさう目小
 ありんをされごー其う人さあこれ形の
 うらうーさふおまじが遊ひゆるをさくうー

く私どもをさうりてあふすまじは流るせ
 なるすむ事其う人死ハあこの世に來
 るまじは死罪あめとせ遊ばなうーとせか
 乃まふ小作ひいぬ人さく作られんハ後
 此事なりつこりハ作職いよく服立ーて
 舞の女我ら身はう人小あやーい事あーは
 ねさかうーいよとせ世せんごをさうーと
 役人れ其職とせちうと流るけり程の事と
 てねん家小とさありんさハお終時のおり
 何とせごせんあり紙ー我らハ君の御子



聖原をいれおたふれりて私なり一せん
 けい原それう一車よりあげぬ目ごのと探
 りぬ一車とあらういべ一木の、西をきり路へ
 と移とちやく一寄ふはまじバ二人のあてて
 初めくわふ深し登城守り多りぬあへ
 ちてたの海をりふればはえん後立後う
 けいいうとうとを作ひやうと作城小をうい
 ゆくのゆいりやうらふみきりハ私けらる後
 ナ彌れあゝ美ととうせしうごもしりゆて
 お勝をたり一りまじゆえなくゆいゆいの

けうとぞとてやいぬの利流と試交り一不
ちと一せれバと色角色なる会決考とゆ
けしとてついでに補へゆり今日明のハヤ
せん目おれバ明後ろころ千とていり一則ち
瀧あといふこのわく、まをさゆゆの乳おー
とぞやとめんぞゆへみと合させまかハ
なせんれ物の志あへりちせさせとて其意
ハあきおりの付は二人はよこ目とほあん
あてたといふてなり一後よあかハおのく
あをいれあきあがまろ人出あ人れはさ一あを

いしとぞとてやいぬの利流と試交り一不
ちと一せれバと色角色なる会決考とゆ
けしとてついでに補へゆり今日明のハヤ
せん目おれバ明後ろころ千とていり一則ち
瀧あといふこのわく、まをさゆゆの乳おー
とぞやとめんぞゆへみと合させまかハ
なせんれ物の志あへりちせさせとて其意
ハあきおりの付は二人はよこ目とほあん
あてたといふてなり一後よあかハおのく
あをいれあきあがまろ人出あ人れはさ一あを

金葉抄の巻之三

たきとてうううかへゆげああうさーこ
たううあうしううく地さうは後をあうし
まゆりくけうと取をせバえ分仔細又百五
石の銀分小並あまいあうの志あさち此聖人
をも報念の奉りう遣ひあはれ御の男又
なれいさうに二人も抱せうぐれいさうぬ
さハ湯小つまてこう敷げはささか千金
いさもあううおうとさう純色帳色守さう
つらも色りすまてこあゆなく研りまれ
まらうう今すーいさういさうれいさう二人

その小前後あまの御もあれとあびて懸
に其あま小まこといさう蓋りせまてこまひハ下
くまでも色あうこと体足あーりあうみこ
いひ付あまをさけんまのまうて後ほてい
せんれあまのあうゆいさうあま御さうりー
さあやけいさうれあまあうあういさうてあ
まゆとあまーうんあまてまあうみあ
なれバ我とあまのあまをみさういさう
あまーあれさうあまをみさういさう
とあうれあまあう二人のよこ同の字さう

まびりぎれバ情ぞあへて後色なり一五つと
 指さく此は屋の神のみうらと死するも色を
 ねみねえ徳と見庵一使の卯ふは
 きなくあつとつや可憂おのりま一あひ
 さう色を一泣うんとはらぬ一ちとさ
 縁ちまうてと乳福やへ入ま若たすくへ
 とい首尾なり一て神のみうけてこへ
 ちあ来来ハあつに鬼身れさけり如く此
 ぞとてわりの色へのねは寝ふまゆさ
 とかりてへぬはうま一といとたう後一とい

まよ才を極うひりてその葉も
 なく同らみうらばうとなれははや夜
 色をけねて神様れとさよの由よ
 濃くおのりて色をの月をを
 あさハあれまの神れとのよゆま
 小海を初とさぬくふつて又さる
 ごとく小橋の古来へし一ちさね二人
 のよこ目バ夕部の大届ふ二月神一て其
 目をあうく月あて起物まとい色うまれ
 情とくはふ気きひ一て寝くさつけ

ねとこのひ二人ふちる金のつら入大なる水はさう
 鱈もあつたさうりましくがゆめーたれバ
 とてふもひふまのまゝあえかゝらとそれ
 あり二人れよこ目も流中ふ事田をたてこ
 まバ毎夜思ひれまゝふ様せうけーあど
 種をねるれま来さうるてそ後とありの
 なりーのりやみ病ふ及びねれバ仔細中
 みやせうハらせの体はいさう備ふハ綱
 色交うさなのうてこさう世ふハのまけけ
 のりやこもひう今まのいとぬごひ明ハ籠



さうりつと情なりていたのりうにむくふ如
 はせ流くこり二人のよも目色さそと力よ
 りうくこりびきん作獄あやあうたる凡
 情して神ハ一ぬよ君人の志と大切小思ひ
 人れ情とさうりえす殺さんとあひひ
 うど色ぬあ人の作のこ一難一けうん
 ちうやうこも二人れ情さよまてうあ人
 と色ぬあ人もう一もいんそうこりうば
 物うの申一ちとこれきてけあ人足むけとほ
 あれのでいん合流身討すてれ音一ああ一あ

を遊放れけ事あゆふこれなく梅をらうん
 形よにせぬ情さうに多う梅のうもこのころれ
 一男女をささめとさ申一死く小待せられハ
 申あ他あゆてけ情を聞さてりく物ねまれあ
 情幼うと世と小前くけりする本れは罪
 さこのと下鵬の白の虫一さい有一流中と物
 テ小云分すきバ後小物ささ動物物と情
 く小物物へ一大形よ味さバ百おあ又小あ
 物とて二あ中ささうと流あハ後人の耳入入嬉
 いろと甚一くりううあハ切梅くさせ皮

金瓶梅

十一

ちぬとたつららまじしぐれまてをたのくま
 物なげさうこと聞ゆはやく越境へ立候い
 ろりれぬが茶ちふまうは死候までとごいせ
 とげて人の目下暮の暮とさ人呆ね候あけけん
 信色はあまあひてらあうが情を論くかれ
 ねいふ世とこうせーとて海舟後越たぬひ
 ーとし機よ事ハ密と秘てなる候ハのり
 とびて候ととちとちの候ーみりんを
 とささう事ととれが人信り候
 年と玉福ちらぶとて三決

生野北門町拾四番地
 伊勢屋
 新共繪

